

①下腹部の膨満感・ひきつれ感について

妊娠していない子宮の大きさは鶏の卵1つ分です。それがこれから3キロの赤ちゃんを育てる大きさにまで大きく変化します。妊娠初期の腹痛は大きくなり始めた子宮が、周囲を圧迫するために生じる痛みと考えられます。また、ひきつれる感じは子宮を支えている靱帯が、急激な伸びに悲鳴をあげている、けいれんを起こしていると考えられます。いずれも正常な妊娠経過の痛みですので、安静に過ごして様子を見ましょう。

②分娩施設へご転院について

妊娠方法が体外受精なのかどうか、不妊治療をしたのかどうかは誰にもわかりません。当院からの紹介状を希望されない場合は、お近くの婦人科で妊娠診断書を書いてもらい、分娩施設にお持ちください。

③出血について

妊娠中の出血は流産に結びつく怖いものと考えられがちですが、妊娠6週までに約7割の方が出血を経験しています。トイレでティッシュに血がつく程度であれば心配ありません。ただし、月経のような量の出血があった場合はクリニックまでご連絡ください。

④流産について

妊娠反応が出た後に辛いお話ではありますが、人間は流産しやすい動物であることを知ってください。流産の原因は受精卵(胎児)の染色体異常による場合がほとんどです。決して不妊治療をした人に多いわけではありませんし、流産の原因が皆様の行動(運動や食生活)にあるわけでもありません。流産の確率は、35歳前後で13～16%、40歳以上の方で20～30%、44歳以上で40%以上といわれています。医学的には初期流産は種の保存のためにやむをえない現象であり、何をしたから、また何をしなかったから流産してしまったということはありませんので、妊娠したからといって急に生活を変える必要はありません。

流産を止める薬や治療はありません

胎ノウの成長が確認できない場合や、多めの出血が続く場合でも、残念ながらそれを止めることはできません。安静にして様子を見守りましょう。

流産ソウハした組織の検査ができます

流産の原因が胎児の染色体異常なのか調べたい場合は、流産組織の検査ができます。費用は85,000円(税別)です。



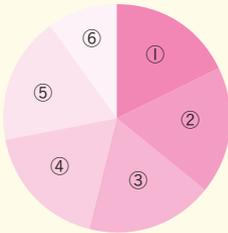
妊娠反応が陰性の方へ

Q 移植周期のホルモン数値も良いし、良好胚を移植しているのにどうして妊娠しないの??

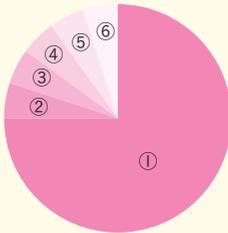
A 妊娠しない原因の大部分は胚の質にあると考えられています。グレードが良い良好胚であってもそれは形態評価(見た目の評価)にすぎず、構造評価ではありません。妊娠に最も重要なのは胚の染色体であり、構造異常や染色体数に異常があると着床はしません。国外では「着床前診断」と言って事前に染色体異常があるかどうかをの検査をして正常な胚だけを移植することができるのですが、日本では着床前診断は特定の人しか認められておらず、そのため妊娠しない原因を特定しにくいのです。また、妊娠しない原因は子宮や免疫などに原因がある場合もあります。

■一般的に胚移植不成功時の原因と考えられているもの

(35歳未満)



(35歳以上)



- ① 卵子の異常
- ② 子宮内膜因子、内膜ポリープ
- ③ 子宮腺筋症、子宮筋腫
- ④ 卵管因子(水腫)
- ⑤ 免疫異常、ホルモン異常
- ⑥ 精子の異常

① 卵子の異常

(1) 卵子の染色体異常

卵子の染色体異常の割合は34歳以下で約40%、36歳以上で約60%、40歳以上で約96%と考えられています。この卵子が精子と受精するため、受精卵には卵子由来の染色体異常が持ち込まれます。染色体に異常のある受精卵は自然淘汰され発育を停止しますので、胚盤胞まで達成できる受精卵の染色体異常率は約25%まで低下しています。しかし逆に言うと、見た目が5AAのようにグレードの良い胚(受精卵)でもそれは見た目の形態評価であり染色体の構造は約25%の異常を有しているということになりますので妊娠は成立しない、もしくは流産に繋がります。では、なぜ染色体に異常が発現するかというと、その原因は、女性の老化＝卵子の老化現象です。卵子は生まれた時から卵巣内に保存されていて、新しく作られることはありません。さらに、35歳を過ぎますと、卵子の中にある分裂や発育に携わる器官などに異常があらわれやすくなり、分割率、着床率、妊娠率は低下し、流産率は上昇します。この現象は、40歳を過ぎますとさらに加速します。女性の年齢が妊娠成績を左右する最も重要な因子と言われるのはこのようなことからです。

(2) エネルギーを生む機能であるミトコンドリアの低下

卵子の細胞質内にあるミトコンドリアは分裂のエネルギーとして重要な役割を果たしています。加齢によるミトコンドリアの減少・機能低下が核の分裂を阻害し染色体の異常を起こします。また、肥満や高血圧などの酸化ストレスもミトコンドリアの機能障害をおこすことが確認されています。

(3) 顆粒膜細胞の体積が減り生物活性物質の低下

(4) 小胞体の質の低下

[検査]

受精卵の染色体異常の検査として、着床前診断(PGD, PGS)がありますが、現在その実施には制約があり当院を含め多くの施設で行うことができません。

[治療]

治療はありませんが、女性の年齢に関係するため、年齢の若いうちに受精卵を凍結保存し貯めておくという方法があります。